

# 組織目標評価報告書（平成29年度）

部署名:

環境管理センター

部署長名:

西村 伸一

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	
<b>①-1 目標</b>	<b>①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
1. 学生及び教職員に対して、環境と安全に関する教育を実施する。 2. 学生及び教職員に対しての環境安全の啓発活動を行う。 3. 各部局における環境安全教育との連携を図り、教育活動を充実させる。	1. 教養教育科目「サステイナブル・キャンパスを目指して」を第4Qに開講し、学生自らが環境マネジメントを理解し、行動するための知的バックグラウンド及びサステイナブル・キャンパスを目指した先端技術が理解できる素養を教授した(8回、受講者約200名)。講義全体における独自の授業評価アンケートでは、5段階で、4.1の評価であった。 2. 岡山大学環境報告書2017と同報告書の英語版及び日英混合版のポスターとダイジェスト版を発行し、学内構成員及び学外者に公表した。また、環境安全ガイド2017、環境安全の手引きの改訂、環境管理センター概要の日本語版及び英語版、環境管理センターホームページの日本語版及び英語版の改訂等により環境安全教育の改善に努めた。 3. 理系学部の実験等の教育と連携し、学生に対して、「環境と安全」の出前講義を実施した(13回、受講者数延べ646名)。
<b>①-2 全学の組織目標との関連</b>	<b>①-2 大学全体への貢献</b>
1. 教育の効果的・効率的な「質の向上」に資するために、アクティブ・ラーニングによる手法の導入の検討を始める。 2. 法令遵守の徹底のため、全学構成員の教育・啓発が必要。	水質管理講習会(e-Learning)を開始した。今年度は試行として実施したが、法令遵守事項もあるため、来年度以降は受講を義務付ける方向で進める。
<b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
教育・啓発を継続する。目標1に関連して、教養教育科目「サステイナブル・キャンパスを目指して」において、授業評価アンケート(5段階)を行い、4.0以上を目指す。	教育・啓発を継続した。教養教育科目における授業評価アンケート結果は、5段階のうち4.1であり、目標達成された。学生のレポート内容から、本講義を受講したことにより、持続可能な社会の構築の重要性について再認識されるとともに、様々な知見を与えることができたと判断している。
<b>②研究領域</b>	
<b>②-1 目標</b>	<b>②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
科学研究費及び共同研究費を始め、競争的資金の獲得に努め、研究基盤の充実を図る。	文部科学省科学研究費補助金、SIP等の外部資金の獲得、また学外との共同研究も行われ、研究代表者として、平成29年度も継続を含め11件の外部資金を獲得した。
<b>②-2 全学の組織目標との関連</b>	<b>②-2 大学全体への貢献</b>
研究大学「岡山大学」の構築に貢献する。	多数の外部資金の獲得により、大学の研究基盤の強化に貢献した。
<b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
科学研究費及びその他競争的資金について、昨年度と同等レベルの獲得を目指す。	研究代表者として、文部科学省科学研究費補助金を5件獲得し、昨年度と同等である。SIP等の外部資金の獲得、外部との共同研究も行われ、受託研究費を6件獲得した。
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	
<b>③-1 目標</b>	<b>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
1. 一般市民が参加できる環境安全に関する公開講演会等を開催する。 2. グローバルな課題であるエネルギー問題、環境保全及び環境改善等に關する技術や知見を広く社会に還元する方策を推進する。 3. 国及び地域の行政に関わる審議会や専門委員会に参画し、社会貢献を果たす。	1. 環境管理センター主催の公開講演会「予想される巨大地震に備えた耐震のまちづくり」を開催し、学外演者2名から、一般市民をはじめ、教職員及び学生に対して、知識を教授した。127名の参加(うち学外者65名)があり、一般市民及び本学構成員が一緒に学ぶ機会を提供した。当該講演会において満足度アンケートを実施し、結果は4.2であった。 2. 環境報告書を通じて環境管理センターの活動を含む大学の活動を学内外への広報に努めた。 3. 行政における委員等(行政関係6件)を務めることより、目標を十分達成した。
<b>③-2 全学の組織目標との関連</b>	<b>③-2 大学全体への貢献</b>
教員の持つ知の財産を活用し、課題解決に向けて役割を果たす。	教員の知識を生かして、学外委員会委員を引き受けた。
<b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
科学研究費及びその他競争的資金について、昨年度と同等レベルの獲得を目指す。	上記のとおり、環境管理センター公開講演会への一般市民の参加者及びアンケート結果が共に目標値を達成した。
<b>④センター業務</b>	
<b>④-1 目標</b>	<b>④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
1. 化学物質の危機管理を含む環境マネジメントをさらに推進・充実させるため、環境マネジメント委員会において諸施策の計画立案・点検・見直しを行う。 2. 化学物質管理講習会・環境マネジメントに関する講習会等を開催し、実施状況を検証する。	1. 環境マネジメント委員会において諸施策の計画立案・点検・見直しを行った。 2. 化学物質管理講習会・環境マネジメントに関する講習会等の実施状況を検証した。 3. 化学物質の危機管理の強化のため、化学物質管理システムの更新を検討した。 4. 水質管理講習会の本学全構成員の受講を目指して、e-Learningによる講習を導入した。
<b>④-2 全学の組織目標との関連</b>	<b>④-2 大学全体への貢献</b>
環境マネジメントの推進・充実に貢献する。	1. 環境マネジメント委員会を開催し、全学の環境マネジメントの推進・充実に貢献した。 2. 全学の化学物質管理のを含む環境マネジメントの推進・充実のため、化学物質管理システムの更新を検討した。 3. 水質管理講習会の本学全構成員の受講を目指して、e-Learningによる講習を導入した。
	<b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
講習会について、前年度以上の受講者数をを目指す。	講習会について、前年度以上の受講者数を目標したが、達成されていない。新たにe-Learningによる水質管理講習の試行を行い、全学で400名近い実施が確認された。
<b>⑤管理運営領域</b>	
<b>⑤-1 目標</b>	<b>⑤-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
部門設置により、運営体制の強化を図る。	部門設置により、業務担当を明確化した。
<b>⑤-2 全学の組織目標との関連</b>	<b>⑤-2 大学全体への貢献</b>
ガバナンス機能・運営体制等の強化に貢献する。	部門設置により、意思決定経路が明確となり、センター内の連絡体制が整備された。
<b>⑤-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>⑤-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
運営体制強化に向けた検討状況。	部門ごとの業務の分担体制を確認し、運営体制強化に向けて常に体制の見直しを行った。
<b>【総括記述欄】</b>	
<p>教育活動においては、教養教育科目「サステイナブル・キャンパスを目指して」について多くの受講者があり、アンケート評価においても目標は達成された。</p> <p>研究領域においては、外部資金獲得について件数も増加し評価できる。</p> <p>社会貢献においては、公開講演会が盛況であり目標を超える評価を得た。</p> <p>管理運営においては、今年度から部門制をとり、運営体制の強化を行った。</p> <p>センター業務においては、例年通りの業務に加え、化学物質管理システムの更新を検討した。環境マネジメントに関する講習会の受講者数が少ないことが懸念事項であるが、その対策として、今年度は水質管理講習会について、e-Learningによる講習を試行的に開始した。来年度は、当該講習の本格運用を予定しているため、受講者数の増加が期待される。</p> <p>また、地球温暖化対策、グリーン購入法の講習会に加えて、温暖化対策(省エネルギー)に関する啓発資料の日本語版及び英語版を作成し、全構成員に対しメール配信及びポスターを印刷し各部局へ配布したほか、グリーン購入推進のポスター並びに可燃ごみ減量化のための雑誌(ざつがみ)回収の日本語版及び英語版の資料を作成した。</p> <p>以上の事柄から、当該年度における組織目標は、十分に達成されたと考える。</p>	